

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190200188		
法人名	社会福祉法人 札幌東勤労者医療福祉協会		
事業所名	グループホーム東苗穂こすもす		
所在地	札幌市東区東苗穂13条4丁目3番21号		
自己評価作成日	平成23年1月24日	評価結果市町村受理日	平成23年4月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190200188&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0190200188&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年2月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は「ゆったり、ゆったり、その人らしく」というモットーにこだわり話し合いながら、入居者さん一人一人のその時の思いを大切にしている。入居者さんと家族とのつながりを大事にし、入居してからも家族と細やかに情報交換を行ったり、家族も入居者さんを支えていくチームの一員として考え、職員が全てを支援せず、日用品の補充や相談事をする事でグループホームへ来訪するきっかけともなり、入居者さんとの交流を持ち続ける事ができている。職員のスキルアップの為に個々の力量に合った研修に参加できるように、研修参加への情報提供が頻繁に行われ、確実に研修に参加できるよう体制の確保がされている。また、資格取得を推進し手当が保障されるなど意欲的に取り組める仕組みが出来ている。開設以来、結婚や定年による退職、または事業所内ローテーション以外に職員の入れ替わりがなく、入居者さんとのなじみの関係もより深まっている。職員間の協力や、コミュニケーションが良好になされていることに加え、併設のデイサービスとも垣根なく交流ができている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、「住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる」事業所づくりを目指し、事業所主催の「こすもす祭り」の案内書を近隣地域に多数配り、交流のきっかけにつなげている。また、地域包括支援センターと協力して、認知症サポーター養成講座や健康相談会を積極的に開催し、寸劇を交えてわかりやすく認知症や介護保険についての説明をしたり、医師による認知症予防についての講演を企画して、毎回、多くの地域住民が参加をしている。家族と連携して利用者を共に支える体制づくりに取り組み、利用案内や個人情報保護の指針、医療重度化への対応指針、看取りに関する指針などの文書も詳細でわかりやすく整備しており、家族との信頼関係構築につながっている。管理者や職員は、外部、内部研修を積極的に受講し、ターミナルケアを実践するなど、全職員でスキルアップに取り組んでいる。職員間のチームワークも良好で、安心して働ける職場であり、利用者の居心地良い暮らしにつながっている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆっくり、ゆったりと自分らしく、一人一人に相應しい暮らしづくりの為の支援を目指すという理念を基に、毎月の部会会議の中で職員の理解が深められるよう話をし、支援の場面で実践できるよう理念の共有化を図っている。	事業所開設時に「住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる」事業所づくりを目指し、全職員で話し合い、「ゆっくり・ゆったり・自分らしく」をケアの基本に掲げ、事業所独自の理念をつくりあげている。また、職員は、常に理念に立ち返り、意見交換を行ってケアの統一を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、運営推進会議は利用者、老人クラブや民生委員や消防団、地域の方を交えて開催している。また、事業所の催しや祭りを通しての交流や、避難訓練にも参加してくれたり、近隣の方からの差し入れや散歩中に声を掛け合ったりする等の日常的な交流がある。	事業所主催の「こすもす祭り」や健康相談会、認知症サポーター養成講座には多くの地域住民が参加し、認知症や介護保険の仕組み等を学びながら、日常的な交流につなげている。利用者は町内会や老人クラブからクリスマス会、食事会の招待を受け、保育園やボランティアとの交流も深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座や健康相談会への参加を地域に向けてお知らせし開催している。複数の職員が毎回参加して地域の方々と認知症についての学習や意見交換をすることで少しずつではあるが理解と共感を得ている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催をして、日々の近況報告や意見交換を行い委員の方からの提案やアドバイスをサービス向上に活かしている。実際の業務の中で質の向上を図れるよう職員は議事録に目を通し内容を把握している。	運営推進会議は、2ヶ月毎に定期開催している。会議では、事業所の活動、医療連携、研修内容などを詳細に報告し、意見や要望を聞いている。自己・外部評価、災害対策、認知症サポーター養成講座や症例報告など、様々なテーマで意見交換をし、サービス向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市と区の管理者連絡会に参加している。札幌市からのアンケートの協力や入居状況の報告を行っている。	管理者は、看取りケアについての問い合わせや、おむつ支給の手続きなどで、市や区の担当者と連絡を取り合い、課題解決に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会へ参加し伝達学習を行ったり部会の中で勉強会をして、日中は玄関の施錠はしない事を含め全ての職員が理解し意識して支援できている。	身体拘束や虐待に関する外部研修は、毎年、年間研修計画に組み込んで受講しており、内部研修でも具体的な行為を確認して職員間の共通認識を図っている。玄関や併設しているデイサービスへの仕切りドアも日中は開錠しており、職員が見守りながら、自由に入出りできるように支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加して学ぶ機会があり、その報告を事業所内の部門会議で行っている。事例文献を用いた学習会を開き、注意を払い防止に努めている。自分の介助方法や考え方について日常的に職員間でざっくばらんに話し意識を高く持っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会は実施しているが、これまでに制度に該当する入居者の方がおらず活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、ご本人と家族には十分な説明を行い理解・納得をしていただいているとともに要望も伺っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱及び外部評価の結果を玄関に掲示したり、報告している。家族の来訪時に職員と話をしたり運営推進会議には家族も参加している。	管理者や職員は、家族と共に利用者を支援する姿勢を大切にしており、利用者に関する家族への報告や相談を詳細に行い、コミュニケーションを深め信頼関係を築いている。	運営推進会議などで、家族からの意見や要望を聞いており、家族会設置を検討しているので、実現を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会の場で運営に関する報告をして意見交換している。	毎年、年度初めに職員の話し合いによって、業務の見直しを実施しており、現在、早朝の業務内容が増えてきたことから、早出勤体制を検討している。また、個人面談も管理部と育成面接との年2回実施し、働きやすくスキルアップ体制の整った職場づくりを目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に参加できるよう体制の確保に努めている。職員に資格を取る事を促進したり資格手当をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度計画に基づき研修に参加する機会を設けており、研修内容を部会で伝達学習している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区事例検討会や管理者連絡会、近隣のグループホームの祭りに参加する等してネットワーク作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接本人から話を聞くことを第一に、本人の思いや要望を知るためにセンター方式を用いて情報をより多く集め安心できるような環境作りや関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配な事や要望は出来るだけ話してもらえるように雰囲気を作り、傾聴し、分かりやすく説明する事を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	オムツ支給サービスの利用が必要と見極め、手続きの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はしてもらい、一緒に出来る家事などお互い協力して行う中で信頼関係や支え合う関係を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時の付き添いや日用品の買い物など必要な時に家族の協力をもらっている。来訪時に職員と家族とが、本人の事で話をすることで関係づくりを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全ての入居者とはいかないが、友人の訪問を受けたり手紙や電話での交流をしたり、馴染みの方々と一緒に里帰りする等できている。	以前の職場の友人と交流したり、家族と一緒に行きつけの美容院、墓参り、神社参りに出かけ、年始年末には家族と過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でお茶や体操などの声掛けをしてもらったり、一緒に取り組む事が出来るようさりげなく見守りをしたり声掛けをしている。職員が個別に対応し繋がりを持つことで他の入居者との関わりを持てる場合もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当はないが必要に応じてフォローする仕組みがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度本人へ聞ける時に聞くことや、第1表の聞き取りをしている。センター方式を通じて家族への聞き取りを行ったり、職員間の情報の共有、気付きを日常的に、または部会で検討している。	職員は、利用者が希望する暮らし方を選択して自己決定できるよう、「ゆっくり・ゆったりその人らしく」を基本に思いを把握するよう努めている。また、キーパーソン以外の家族からも本人の暮らし方の希望を聞いており、様々な角度から検討するよう努め、職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表やセンター方式の活用をしたり、本人、家族からの聞き取り、関係医療機関からの情報収集をする事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中での言動や行動、表情など全ての情報から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価した介護計画に基づいて本人、家族に伝えケアや暮らしに対しての要望を伺い計画に反映し作成している。	毎月、利用者全員のカンファレンスを行い、3～6ヶ月毎の介護計画見直し時期に、具体的介護内容についての評価を実施している。家族の来訪時には、毎日の個別記録を読んでもらい、利用者の状況を把握してもらい、要望を聞いて話し合い、新たな計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や気付きをノートに記録し情報の共有に努め、それを基にしてタイムリーに介護計画へ反映できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これまでの暮らしの継続として、併設しているデイサービスの機能の利用に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回数は少ないが他グループホームの祭りへ参加している。また、近隣の理容店やスーパーの利用が継続できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通院していた病院を継続している場合は、家族と相談し適切な医療につなげる事が出来るよう必要な情報のやり取りをして連携出来ている。	かかりつけ医への通院時には利用者の状況を手紙にして家族に持参してもらい、後で医師等からの話も確認して連携している。協力医療機関による月2回の訪問診療と週1回の訪問看護を支援しているほか、健康診断や歯科検診も実施して、日ごろの健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護で一週間の入居者の様子や相談すべき事を、記録と口頭で伝え相談している。適切な処置やアドバイスをもらい受診やケアにつなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院には必要な情報提供をし、入院中にもこまめに情報交換している。なるべく早期退院できるよう家族も含めて速やかに情報交換するよう努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設以来初めての看取りを行った事で、終末期ケアの在り方について他の家族と話す機会が若干増えている。しかし、聞き取りも出来ない入居者も複数おり、取り組みは完全ではなく今後取り組むべき課題としている。	利用開始時に、本人や家族へ医療重度化への対応指針を説明し、同意を得ている。希望に応じて、看取りに関する指針も提示し、開始時期からの具体的方法や支援内容などを詳細に説明し同意を得て、関係者や職員の共通認識の基、より良い支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防での応急手当の訓練に参加したが定期的なものではない。部会の中で取り組む学習会では、様々な状況における急変時の対応について学ぶ機会を設けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を含め年2回実施している。その際には近隣住民にも声掛けをして参加してもらっている。一時避難場所として車庫を貸してもらえよう協力体制を築いている。	2月と8月に消防署指導の下、昼夜想定火災避難訓練を実施し、利用者避難後の見守りも近所の人の協力を得て連携して行っている。設備点検を年2回実施しており、緊急通報システムについては、セキュリティー会社と契約し、火災検知と同時に消防に直接連絡できる体制を整備している。	生活空間が全て一階にあり避難出口も多いが、構造上の利点に安心することなく体制の強化に取り組んでいる。スプリンクラー設置や地震を想定した訓練等も予定しており、繰り返しの訓練の取り組みを期待したい。また、非常用品の準備、地域住民も含めた連絡網整備も望まれる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に、またその状況に適した声掛けや対応をしている。	理念にも「個々の人格を尊重する」ことを謳っており、倫理やプライバシーに関する外部研修も受講している。職員は、ケアの前には必ず声かけすることを意識し、日常的に言葉かけの方法や対応を職員同士で話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思うままに過ごせるよう、思いの表出を見逃さないよう支援し、自己決定する事を尊重して言葉掛けをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を最優先し本人のペースで暮らしづくりをしている。職員は安全面や衛生面など様々な視点で入居者を見る力量が求められるため、チームが一段となって支援する必要があることを理解している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の本人の気分によって洋服を選んでもらったり、本人の気付かないところはさりげなくフォローしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや味付け、盛り付けなどの準備や片づけができるよう声掛けをして場面を作り一緒に楽しみながら行っている。	食事の一連の作業は、利用者の状況に応じて、それぞれの場面で一緒に行っている。誕生日には、食べたい物を選んでもらい、好みにより赤飯やラーメン等を一緒に作っている。弁当やバーベキュー等も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録し必要時は補食をして栄養摂取できるようにしている。水分補給も好みに応じこまめに摂れるよう支援している。体調不良時等、特に注意が必要な場合は水分確保できているかがすぐ分かるように記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きの声掛けと見守り、介助をしている。義歯洗浄剤を利用したり、健診及び口腔ケアにつなげている。歯磨きに拒否のある入居者に対しても、大切な習慣と説明して声掛けを続けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を基に時間を見計らった声掛けをしている。本人の仕草やサインをアセスメントした上で声掛けをしたり介助をしてトイレで安心して排泄できるよう支援している。状況に応じて紙パンツと布パンツの併用をしている。	毎日の24時間の排泄チェックと1ヶ月の排泄チェック表を基に、トイレでの排泄支援をしている。ほとんどの利用者が、トイレで排泄している。併設しているデイサービスでの体操にも参加し、積極的に体を動かすことで機能維持を意識した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や乳製品、水分摂取を積極的に支援する他、食事では野菜を多めに使用し繊維質のものが摂れるようにしたり運動量にも気をつけ出来るだけ毎日楽しみを持って体操が出来るよう声掛けをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が入浴する気になるまで待ったり、気分の乗らない時には足浴に切り替えたり、時間帯や場面、日を改めて声掛けをしてみる等臨機応変に対応している。	仲が良い利用者2人で一緒に入浴することもある。毎日入浴する利用者もいるが、ほとんどの利用者が、週1～2回の入浴となっている。ゆず湯やしょうぶ湯にしてみたり、昔話や歌等で工夫しながら楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて居室の布団で休息出来るよう声掛けをして疲れ切らないよう支援している。夜間に眠れない時にはゆったりとした雰囲気を作り一緒に過ごしたり好みの飲み物や菓子を提供し安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに処方箋があり副作用や効能について随時確認している。薬の宅配時には薬剤師から処方薬の説明や状態の変化の有無など口頭で情報交換している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の個性や習慣に即した楽しみごとや気分転換(歌や縫物、畑仕事、散歩など)が出来るよう支援している。得意な事や好きな事をお願いしてやりがいや達成感が持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に頻繁な外出支援は十分とは言えず、今後の課題と言える。数は少ないが、天気の良い日にドライブへ出掛けたりその日のオヤツを車で買い物に出掛けたりしている。家族が来訪時に戸外へ連れ出してくれるなど協力を得る場合もある。	天気の良い日には、散歩や近所の庭観賞、公園、裏の畑や、玄関前での短時間の外気浴など、利用者の状況や体調に合わせて支援している。また、年間行事の花見やモエレ沼公園の紅葉見学など、事業所の車を利用して外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している入居者は少ないが、支払いが生じた時には自分の手で支払いやお釣りを受け取る事が出来るよう傍で声掛けと見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい希望があった時や掛かってきた時には、居間でお話してもらったり、ダイヤルできない時には職員が掛け本人に代わっている。ハガキや手紙は直接本人へ手渡している。判断に迷う時には家族へ相談後渡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの耳障りな音量や椅子を引き摺る等の音や直射日光、蛍光灯等の光、室温湿度には気を配っている。季節に合った草花や飾り物を置き楽しめるよう工夫している。	居間兼食堂は、大きな出窓や吹き抜けのログハウス風天井となっており、壁には柔らかな採光の電灯を設置し、和やかな雰囲気となっている。廊下とデイサービスのホールを開放し、利用者の歩行練習に使用したり、デイサービスでのドッグセラピーに毎月参加し、ぬいぐるみ等もソファに飾って、安らげる空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部に居ながらも独りになりたい時に過ごせるような一角を設けるとともに、その時の状況に応じ周りの視線を気にせず過ごせるように座ってもらう等配慮している。親しい入居者同士で居室訪問することもごく自然にできている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用してきた馴染んだ物を出るだけ持ってきてもらっている。壁に好きな飾り物を飾ったりして、本人が心地いいと思えるような居室づくりをしていく事に家族も協力的に支援してくれている。	居室は、窓が大きく明るい。馴染みの家具や仏壇など、利用者の大切にしてきた物を持ち込み、落ち着いてくつろげるように、家族の協力も得て、家具の配置やカーペット使用など工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗濯室、各居室は分かりやすく表示している。カウンターから居間の様子をさりげなく目配りできるようにしている。玄関は施錠せずセンサー音で出入りが確認できるようにしてすぐに付き添いや見守りが可能となっている。		